経営比較分析表(令和元年度決算)

福井県 大野市

70 00

60 00

50.00

40 00

30.00

20.00

0.00

当該値 71.23

平均値

THE CASE OF THE CA				
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	12. 98	2, 059	

人口 (人)	面積 (km²)	人口密度(人/km²)
32, 902	872. 43	37. 71
現在給水人口(人)	給水区域面積(km²)	給水人口密度(人/km²)
4, 235	4. 97	852. 11

1 400 00

1, 200, 00

1,000.00

600.00

400 00

200 00

当該値

0.00

125 64

平均値 1,134.67

④企業債務高対給水収益比率(%)

H29

108 21

1, 144. 79 1, 061. 58 1, 007. 70

H30

126 48

H28

112 45

グラフ凡例

■ 当該団体値(当該値)

- 類似団体平均値(平均値)

【】 令和元年度全国平均

分析欄

[1,084.05]

146 64

1 018 52

[73.31]

R01

95. 24

72. 78

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は概ね100%で推移しているが、 繰出基準外の一般会計補助を行い、収入不足を補て んしていることによる。

④企業債残高対給水収益比率は平均の1割強程度となっている。事業の必要性、優先度を見極め起債額の圧縮に継続して努めていく。

額の圧縮に継続して努めていく。 ⑤料金回収率が逓減している。今後も給水人口の 減少や節水型ライフスタイルの定着により有収水量

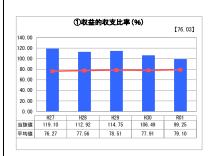
の減少が予想されることから、適正な料金設定と施設の統合による計上経費の削減等に努める。 ⑥給水原価は上昇傾向にある。給水人口の減少等

による有収水量の減少等の要因により、今後も上昇 の傾向が続くと考えられるため、経営の更なる効率 化を図る必要がある。

⑦施設利用率については、給水人口規模が少ないこともあり平均を下回っている。引き続き施設運営の効率化に努める必要がある。

⑧有収率は増加しており、引き続き適正な修繕や 老朽化施設の計画的な更新により、効率的な経営に 努める。

1. 経営の健全性・効率性



⑤料金回収率(%)

H29

70. 23

70. 21

68. 48

[53.46]

63.88

500.00

450 00

400.00

300 00

250.00 200.00

150.00

100 00

0.00

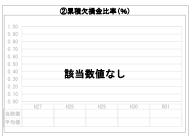
当該値

平均値

190. 47

198.84

304.35



⑥給水原価(円)

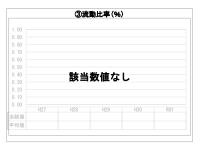
H29

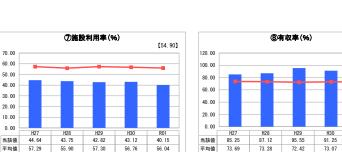
190. 48

296. 30

195, 24

292. 90





2. 老朽化の状況について

平成27年度に実施した固定資産評価及び平成28年度策定の収支計画に基づき、老朽化に順次対応 1.でいる。

③管路更新率が下がっており、管路以外の施設も 含め、一時期に更新にかかる負担が集中しないよう う、適切な締結による延命化を図る。また、大野市 営水道事業基本制画に基づき、施設規模の適正化と 計画的な施設の更新に取り組む。

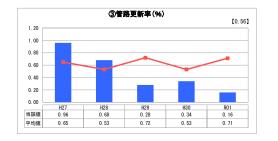
2. 老朽化の状況

[300.47]

214. 15







全体数

給水人口が減少の見通しであり、料金収入の減少への対応と、安定した水源の確保と老朽施設の更新が課題である。

が成立 この心。 現在、一般会計からの繰入により経営の健全性は 保たれているが、今後施設更新のビークを迎えるに 当たり、一般会計に過度に依存しないよう、適正な 料金設定、合理的な施設航廃合や計画的な施設の更 新等による維持管理費の削減など効率的な経営に努 め、健全経営を堅持できるよう努める。